

第4回ESD連続セミナー概要報告

奈良教育大学 大西 浩明

- ◇実施日時 2022年7月28日(木) 19時～21時
- ◇方法 ZOOMによるオンライン開催
- ◇参加者数 39名
- ◇内容 実践事例のESD授業分析、単元構想案の作り方

1. 実践報告

小学校6年総合「まみいちから伝える竹取物語の魅力 ～万葉集 古典に親しもう～」(全15時間)
王寺町立王寺北義務教育学校 藏前 拓也 先生

前任校のあった奈良県広陵町…靴下、古墳、かぐや姫で有名

【知る】

「かぐや姫」ってどんな話だったかな？

かぐや姫は結婚しましたか？ 知っているつもりだったけど 広陵町のどこにゆかりが？

実は、この話は作者不明 1000年以上前の話がどうやって今に伝わってきたのだろうか？

【調べる】

町の文化財課の方にゲストティーチャーに来てもらう

広陵町が竹取物語の舞台の根拠(竹取の翁、讃岐神社、5人の貴公子)

讃岐の造(さぬきのみやつこ) 散吉郷(さぬきごう) 讃岐神社(さぬきじんじゃ)

讃岐神社へ行ってみよう

近くに竹取公園があり、そこへも行ってみる

竹取公園は、子どもたちにとって馴染みのあるところだが、竹取物語とはつながっていない

竹取物語は万葉集とつながりがある

→ 万葉文化館の研究員の方にゲストティーチャーとして来てもらう(自分たちでアポを取る)

竹取物語「いまはむかし 竹取の翁というもの有けり」

万葉集「昔有老翁 号曰竹取翁也」

どちらも竹取の翁が出てくるが人物像が違う(万葉集は今で言う「ちょいワルおやじ」)

竹が神秘的で不思議な力を持っているというイメージは同じ

万葉集は「たからもの」 歌にこもっている「こころ」は今も昔も変わらない



こういうものが伝わってきているところが広陵町の価値、魅力

【まとめる】

「竹取物語の魅力や価値は、ちゃんと伝わっているのだろうか？」

竹取公園の池にある龍のモニュメント 公園で働いている人に尋ねてもなぜあるのかが分からない

文化財課の方に聞くと、「竹取物語に出てくる龍。看板でもあるといいのですが。」

→ 地元の人でも知らない人がいるんじゃないか 周りの人に聞いてみよう

お父さんやお母さんだっけ知らないのびっくりした

なぜ、広陵町のキャラクターが「かぐやちゃん」なのか知らない人が多い

大人の人でも知らない 何か自分たちでできることはないかな。

【ひろげる】

竹取物語を広めるために…ポスター、PR 動画、靴下のデザイン、カルタの作成、和菓子のデザイン、封筒のデザイン、すごろく、看板、パンレット など

・校区の靴下工場に自分たちの考えたデザインを届ける

→ 社長・工場長同席の下、製品化へ話が進む

3か月後、デザインを忠実に再現して

かぐや姫のデザインも町の許可をとって

子どもの考えた質感の素材で

靴下の贈呈式をリモート開催

社長からの手紙



製品化された靴下

「勇気をもって踏み出した一歩が、学校を動かし、地域の人たちを動かし、会社を動かし、今日のこの場を生み出した。自分の未来は自分で創っていける。」

・和菓子屋さんにも考えた和菓子のデザインを届ける

・カルタやすごろくを下級生にプレゼント

・作った封筒を地域の方へのお礼の品を入れて手渡す

【考察】

古典や万葉集に興味をもつ児童が大きく増えた

広陵町を好きだと言える子も増えた

地域のために何かしたいと思うようになった

広陵町の何を自慢したいか？ → 竹取物語、古墳、靴下など様々なものが大きく増えた

「地元への思いが深くなった」「今までよりも広陵町に親しみを感じられた」

「地元への愛が深まった」「靴下郷土の誇りだ」

地域の「ひと・もの・こと」をバランスよくつなげられた

子どもたちの靴下が役場の地場産業紹介コーナーに展示されている

地域にある魅力や価値の再発見 学校・行政・公的機関・企業などとの関わりの中で学習できた

学校での学びが地域や社会とつながっていることを実感できたのでは

【意見交流から】

・学校と地元の企業がつながることで生み出される学びの大きさが分かった。

・竹取物語は国語のイメージだったが、ESD として取り上げているのが驚いた。

・身近な地域に課題を落とし込んで学びを進めることの ESD としての大切さがよく分かった。

・教師側が思っているように高まっていく子とそうでない子がいると思うが？

→ 教師以外のいろんな人（GT も含めて）との出会いによって子どもの意識が高まっていった

・国語だけで考えていると靴下へという発想は出てこない。

・子どもがいろいろやりたいことを出してきたときに、どのような教師側のサポートがあったのか？

→ とにかくできるところまで子ども自身にやらせてみよう

これまでゴールがポスターとか発表会で終わっていたので 6年生の最後だし

- ・この実践は今後どのように継承されるのか？
→ 学校内では今年も形を少し変えてされるよう 形骸化しないようにすることは肝心
- ・竹取物語の理解だけにとどまっていなくて、行動化までつながっている。
- ・総合的な学習の時間として、カリキュラムマネジメントはどうだったか？
→ 国語の教科書（5年）に読み物教材として載っていたものをもう一度読んでみた。
- ・教科横断的な学び、地域に学びが発展して、地域を好きになる流れが非常にスムーズ。

【ESD との関連】

(見方・考え方)

有限性 昔から続いてきたものを受け継いでいく

連携性 企業や市役所との連携が強かった

責任性 学びが多かったからこそ次の世代に受け継いでいかなければならない

多様性、連携性を達成できていたと思っていたが、振り返ってみると

相互性(他者と繋がりながら広範囲に学ぶ)、責任性(グループワーク等から生じるリーダーシップ)

責任性…自分たちの企画に参画していただき、0の地点地点から商品の製品化まで協力して下さっている企業さんの姿勢から、物事の実行に対する責任性を学ぶ

(資質・能力)

批判的に考える力(クリティカル・シンキング)以外が当てはまるのでは

コミュニケーション力、他者と協力する態度、つながりを尊重する態度あたりが、企業との交流において強く鍛えられたのではないのでしょうか。

多角的にものごとをとらえる態度

他者(異年齢含む)と協力的にものごとを進める力

積極的に参加する姿勢

(価値観)

特に「幸福感」→授与式の時の子供の嬉しそうな笑顔。自分達のアイディアが形になる達成感。社会と関わって何かをつくりだす自信が自己肯定感にもつながる。

幸福感を重視する → 学びが地域に貢献する可能性を感じた。

手紙を受けて感じたこと(地域と生徒たち)

人権、文化、幸福感

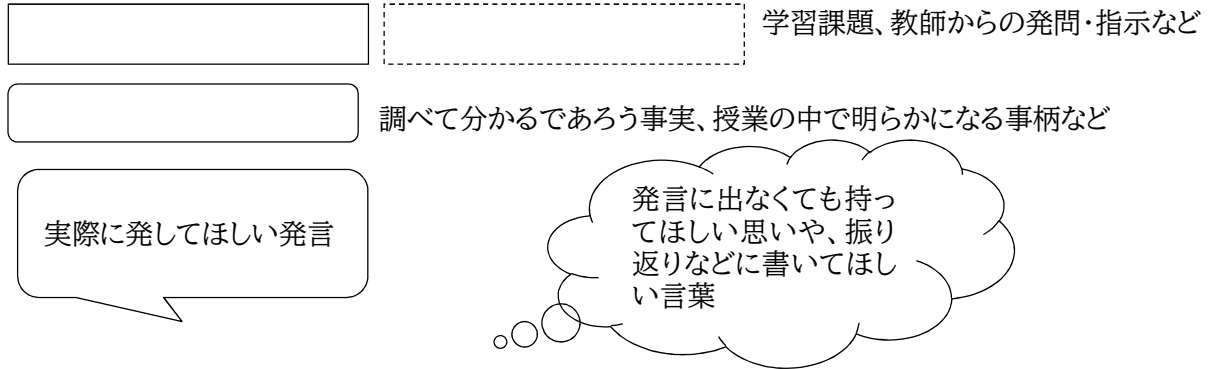
人権・文化を尊重する。

幸福感に敏感になる。

2. 単元構想案の作り方

単元構想図

具体的な授業をイメージして、児童が発するであろう言葉や、もつであろう思いなどをマップ化して、学習の流れを可視化したもの



⇒ 教師からの発問や指示、明らかになった事実に、吹き出しをつけていくと構想図が出来上がる！

◆問いの質を高める

探究的な学びを進めていくには、問いの質が重要！

- ・単元の目標につながるもの
- ・単元の流れで必然性があるもの
- ・答えがいくつあるもの
言葉やその使い方にこだわる

子どもの疑問や思いから醸成されたもの
単なる教師からのトップダウンではないもの

- ① 単元を通して核となる問い
- ② ①を深めるための問い
- ③ ①を発展的に考える問い

単元展開の中で、こういうことについて、考えさせたい、話し合わせたい、自分なりの行動計画を立てさせたいというものを明確にできるなら、どの問いから考えてもいいと思います。

◆ESDの授業を構想する際には・・・

その題材(教材)を通して学習することで、

- ・どんなESDの見方・考え方を働かせることができるのか
- ・どんなESDの資質・能力を育てることができるのか
- ・どのようにESDの価値観を変革させようとするのか
- ・どのようなESD的な行動化を求めようとするのか

視点、資質・能力、価値観については、項目だけを羅列するのではなく、学習内容に落とし込んで、その説明を書く。



SDGsの何を達成することに貢献するのか ⇒ でも、これらは後付けでいいです！

学習指導要領に沿って、子どもがワクワクするような授業を考えたら、ほぼESDになっているはず！